

タイトル	ヒバ林施業に関する現地検討会
実施年月日	平成25年9月19日(木)
実施場所	青森県北津軽郡中泊町大字中里字紅葉坂210 中泊町総合文化センター 青森県北津軽郡中泊町大字宮野沢 袴腰山国有林219林班は1小班
参加者	局署：東北森林管理局、青森事務所、津軽森林管理署、 青森森林管理署、下北森林管理署、三八上北森林管理署 25名 外部：東青地域県民局、中南地域県民局、西北地域県民局、 青森県産業技術センター林業研究所、青森県森林組合連合会、 森林組合あおもり、北津軽森林組合、弘前地方森林組合、 つがる森林組合、森林総合研究所東北支所 15名 計 40名

【取組の概要】

天然ヒバ林の中には、下層植生が見られず地表面が裸地化している単層一斉林型の林分が散見される。このような林分には適度な伐採を実施し、光環境の改善を図ることにより、下層植生やヒバの後継樹の発生を促すことができることが試験の結果分かった。この試験地において、ヒバの人工林を育成している青森県、県内周辺市町村、森林組合担当者等を対象に情報提供し、技術の普及を図るため現地検討会を開催する。また、ヒバ林において課題となっている漏脂病についても、調査状況の説明及び現地での被害状況を確認し、意見交換を行い情報共有をする。

【取組の成果】

森林技術・支援センターのヒバ林施業に関する技術開発成果について情報提供し、意見交換を通じて民有林行政担当者等のヒバ林施業に対する知識・技術の向上に資することができた。
ヒバ単層一斉林型を複層林型へ誘導するためには、林床に天然ヒバを発生させ、実生として定着させるための適切な光環境が重要であり、その林分状況を理解しやすく説明することができていた。また、それに関する疑問や課題について意見交換することができた。

【出された意見】

ヒバ単層一斉林型を複層林型へ進めるに当たり、天然ヒバ実生が林床に定着した後、上層木を伐採する際、天然ヒバ実生や稚樹の損傷を軽減する技術に関して、積雪時施業の他にありなのか。

【センターからの回答】

現在のところ確立された手法は開発されていないが、施業の低コスト化を進めるためには、積雪時施業以外の手法を開発していくことが重要な課題と考えている。

【今後の課題】

ヒバ単層一斉林型を複層林型に誘導するためには、林床の光環境が重要である。このことから、様々な林分に応じた施業が必要になるため、これに関するマニュアルの作成が必要と考えられる。
また、低コスト施業を進める観点から天然ヒバの実生等が林床に定着後、これらの損傷を軽減する積雪時以外の上層木伐採手法の開発が必要と考えられる。

タイトル ヒバ林施業に関する現地検討会



ヒバ林施業に関する技術開発成果の説明



意見交換



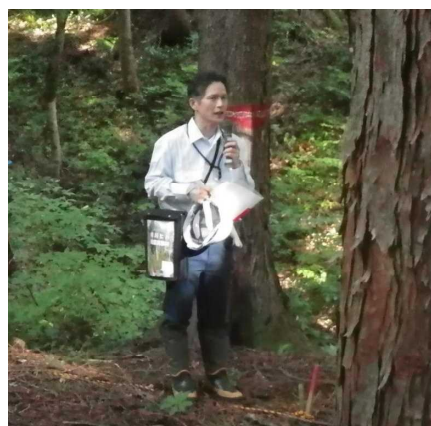
増川及び大畑ヒバ施業実験林パネル展示



現地説明



現地での意見交換



森林技術・支援センター所長の講評